

# 2011年3月期第2四半期 連結決算報告



大幸薬品

---

2010年11月  
大幸薬品株式会社



- 感染管理事業の低迷により損失を計上
- 通期業績予想を下方修正
- 業績回復に向けた構造改革を開始

# 連結經營成績

# 連結経営成績サマリー

## ➤ 感染管理事業の低迷により損失を計上

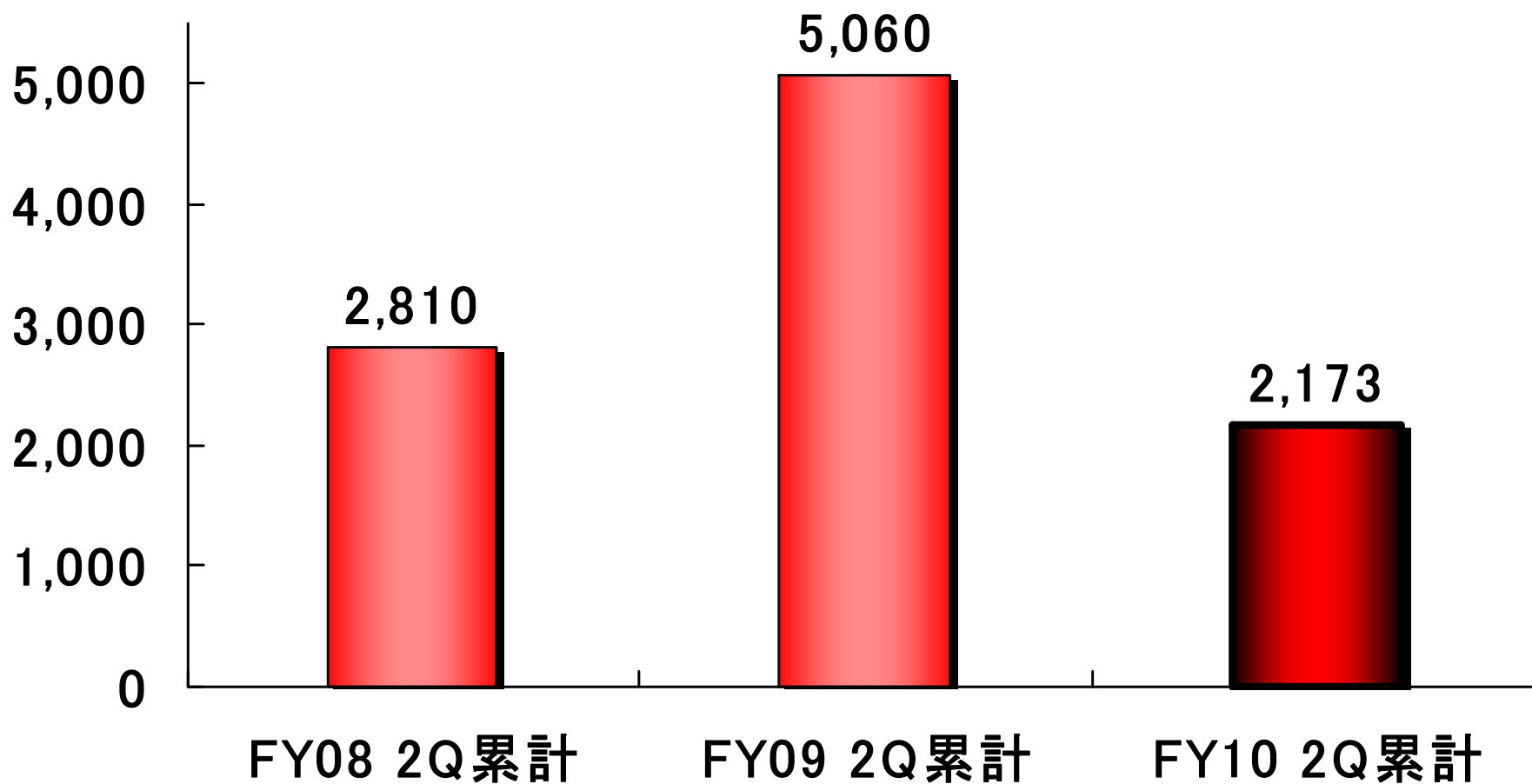
単位:百万円

	FY09 2Q累計	FY10 2Q累計	増減	増減率	増減要因等
売上高	5,060	2,173	△2,886	△57.1%	感染管理が2,588百万円の減少 (製品需要の低迷、流通在庫の滞留、 多額の返品発生)
売上原価(※1) (売上高比率)	1,384 (27.4%)	619 (28.5%)	△764	△55.3%	
売上総利益	3,676 (72.6%)	1,554 (71.5%)	△2,122	△57.7%	感染管理事業の低迷(売上総利益が損失) による減少
販売費及び 一般管理費	1,867	1,897	29	1.6%	売上高に比例しない費用構造
営業利益	1,808 (35.7%)	△343 (△15.8%)	△2,151	-	
経常利益	1,815 (35.9%)	△324 (△14.9%)	△2,139	-	・営業外収益65百万円 (保険解約返戻金48百万円等) ・営業外費用45百万円 (為替差損40百万円等)
四半期純利益	1,182 (23.4%)	△709 (△32.7%)	△1,892	-	・特別損失(減損損失等) 115百万円 ・法人税等調整額 267百万円

(※1) 返品調整引当金計上後の売上原価

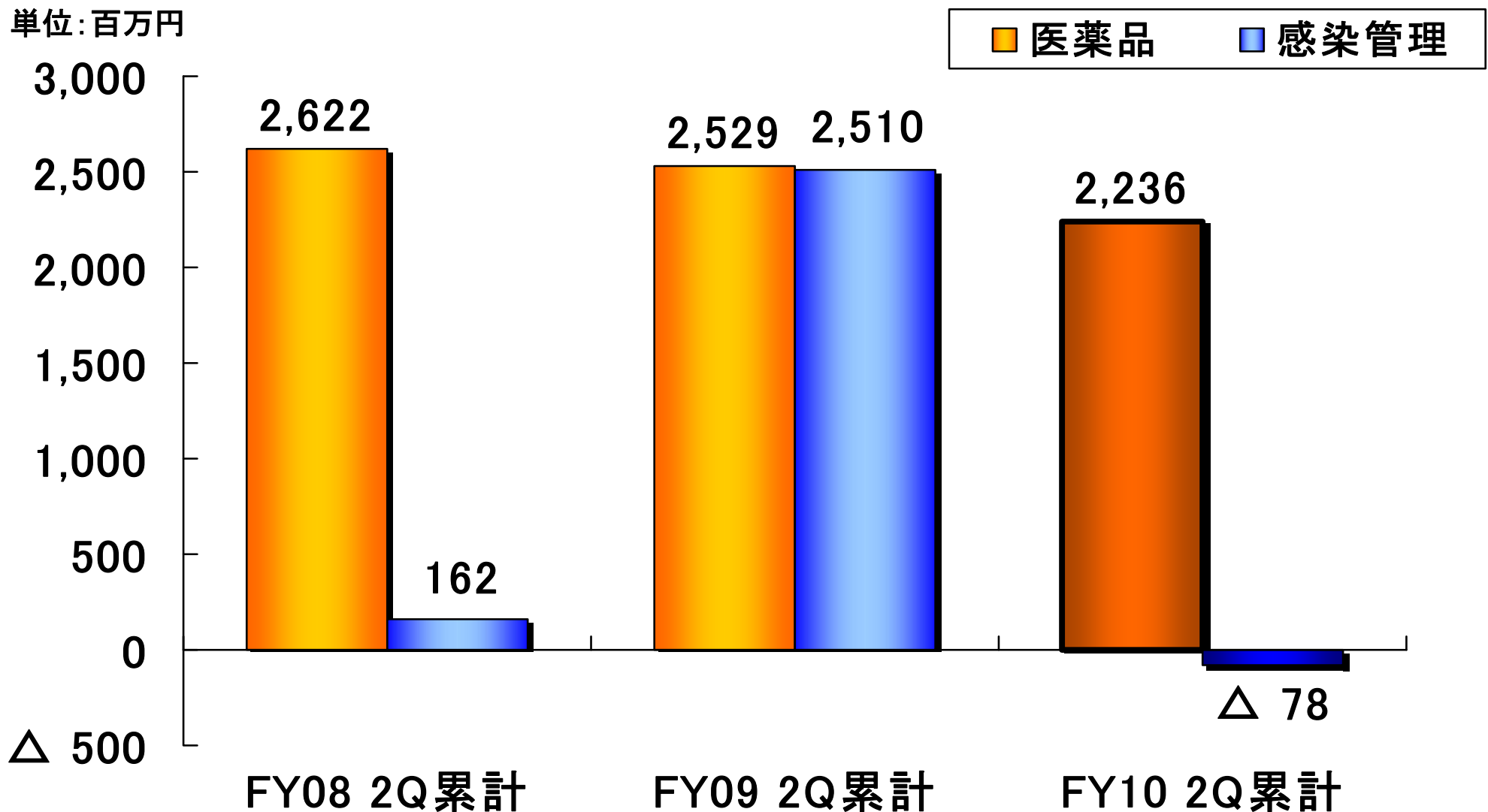
➤ 感染管理のマイナス売上高と海外医薬品の落込みにより減少

単位:百万円



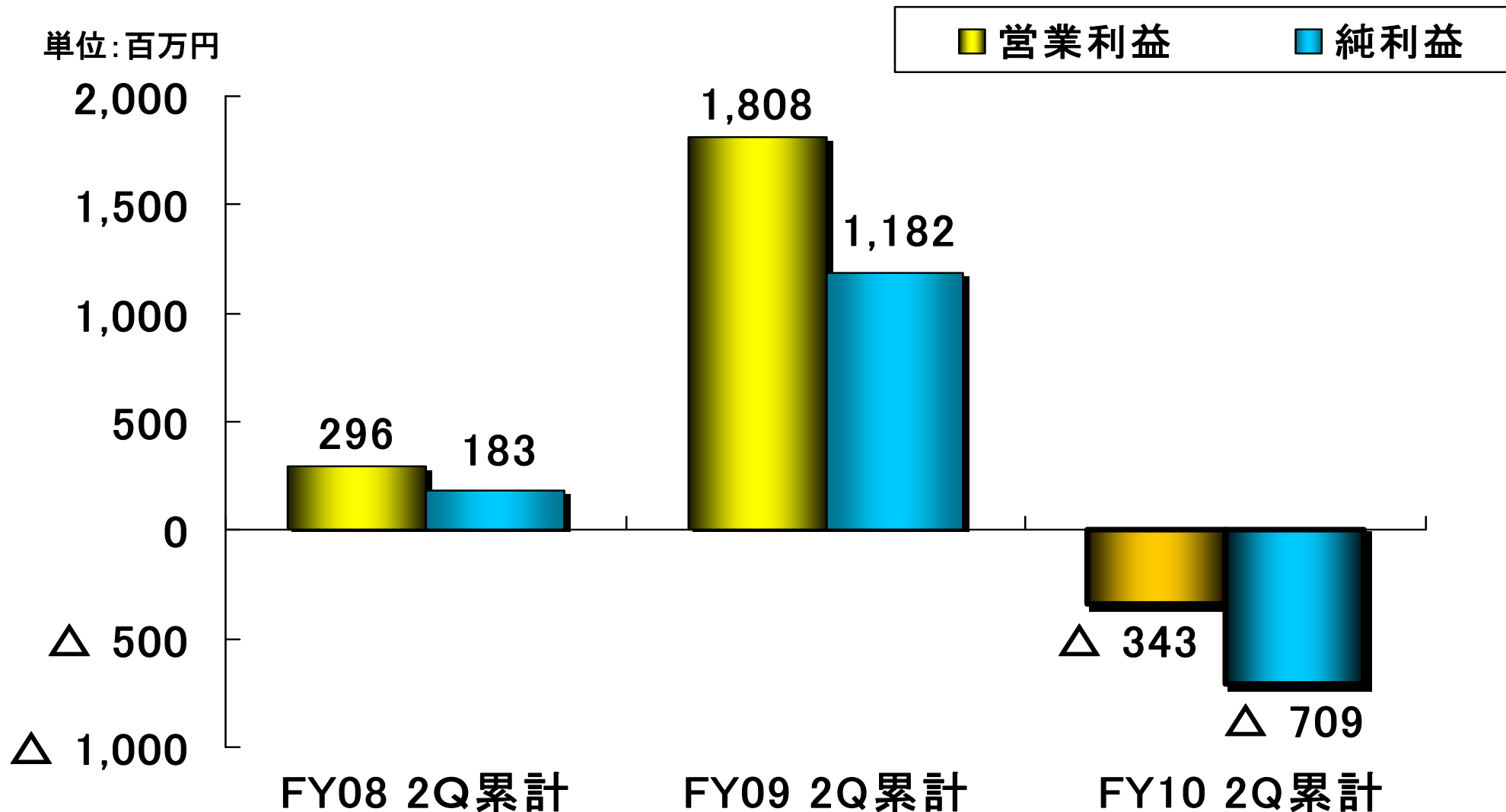
# 連結売上高推移(医薬品・感染管理事業)

- (医薬品) 主に中国向け出荷が減少
- (感染管理) 返品額が出荷額を上回り、マイナス売上高を計上



# 連結営業利益・純利益推移

➤ 営業利益、純利益ともに損失を計上



# 販売費及び一般管理費

## ▶ 売上高の減少に比例せず微増

単位：百万円

	FY09 2Q累計	売上高 比率	FY10 2Q累計	売上高 比率	増減	増減率	増減要因等
販売費	628	12.4%	642	29.6%	14	2.3%	感染管理の在庫保管料等が増加
広告宣伝費	400	7.9%	361	16.7%	△38	△9.7%	下期のCMにウェイト
販売促進費	164	3.3%	180	8.3%	15	9.7%	
人件費	700	13.8%	694	32.0%	△6	△0.9%	
その他経費	538	10.6%	560	25.8%	21	4.0%	
研究開発費	163	3.2%	148	6.8%	△15	△9.5%	
支払手数料	103	2.1%	129	6.0%	25	24.8%	知的財産関連、証券代行関連費用等が増加
計	1,867	36.9%	1,897	87.3%	29	1.6%	



# 連結財政状態

➤ 損失計上や法人税の支払い等により現金及び預金が減少

単位:百万円

	FY09 期末	FY10 2Q末	増減	増減率	増減要因等
<b>流動資産</b>	8,784	7,246	△1,538	△17.5%	
現金及び預金	5,123	3,033	△2,089	△40.8%	・EBITDA △230百万円 ・運転資本増加 △961百万円 ・法人税等 △816百万円 等
受取手形・売掛金	1,331	1,773	442	33.3%	医薬品の売上債権が増加
たな卸資産	2,021	2,143	121	6.0%	主に感染管理製商品の在庫が増加
<b>固定資産</b>	5,144	4,889	△254	△4.9%	
<b>資産合計</b>	13,929	12,136	△1,792	△12.9%	
<b>流動負債</b>	2,448	1,481	△967	△39.5%	法人税等の支払額816百万円等
支払手形・買掛金	801	486	△315	△39.4%	
<b>固定負債</b>	866	857	△8	△1.0%	
<b>純資産</b>	10,613	9,797	△816	△7.7%	利益剰余金の減少
<b>負債純資産合計</b>	13,929	12,136	△1,792	△12.9%	

自己資本比率	76.2%	80.7%
手許流動性比率	697.4%	837.6%

# 連結キャッシュ・フロー状況

➤ 損失計上や法人税の支払い等により営業活動CFがマイナス

単位:百万円

	FY09 2Q累計	FY10 2Q累計	増減要因等
営業活動CF	△264	△2,023	・EBITDA △230百万円 ・運転資本増加 △961百万円 ・法人税等 △816百万円 等
投資活動CF	△144	104	所有不動産売却に係る手付金収入 105百万円等
財務活動CF	△26	△103	配当金の支払額125百万円等
現金・同等物換算差額	20	△27	
キャッシュ増減(※1)	△414	△2,049	
キャッシュ期末残高	2,881	3,006	
EBITDA(※2)	1,902	△230	・営業損失 △343百万円 ・減価償却費 113百万円
運転資本(△は増加)(※3)	△2,246	△961	・医薬品に係る売上債権増加 ・感染管理等に係る仕入債務減少等

(※1) キャッシュ増減 = 営業CF + 投資CF + 財務CF + 現金・同等物換算差額

(※2) EBITDA : 営業利益 + 減価償却費

(※3) 運転資本 : 売上債権 + たな卸資産 - 仕入債務

# セグメント情報

# セグメント別事業概況(連結損益サマリー)

- (医薬品) 感染管理の減収により、医薬品への費用配賦が増加
- (感染管理) 需要縮小と返品の影響から、マイナス売上高を計上

単位:百万円

	売上高			営業利益			
	FY09 2Q累計	FY10 2Q累計	増減率	FY09 2Q累計	利益率	FY10 2Q累計	利益率
医薬品事業	2,529	2,236	△11.5%	1,140	45.1%	866	38.7%
感染管理事業	2,510	△78	-	1,471	58.6%	△422	-
その他事業	21	14	△32.4%	5	25.9%	△14	-
全社(※)	-	-	-	△809	-	△772	-
連結合計	5,060	2,173	△57.1%	1,808	35.7%	△343	△15.8%

※全社に係るコスト(主に基礎的試験研究・企業広報・管理部門コスト)

# セグメント別事業概況(医薬品事業/国内)

- 『正露丸』の落込みから、売上高全体も減少傾向
- 『セイロガン糖衣A』は堅調に推移

当社製品トータルシェア： 2010年4月～2010年9月累計 50.9% (出所：株式会社インテージ 調査データ)



正露丸



セイロガン糖衣A



ピシャット



ラッパ整腸薬BF

## 製品別売上高

単位：百万円

	FY09 2Q累計	FY10 2Q累計	増減	増減率
正露丸	966	903	△63	△6.5%
セイロガン糖衣A	1,013	1,023	9	1.0%
その他(※)	35	43	8	23.2%
計	2,015	1,970	△45	△2.2%

(※) 止瀉薬『ピシャット』・整腸薬『ラッパ整腸薬BF』

# セグメント別事業概況(医薬品事業/海外)

## ➤ 中国向け出荷が減少

(販売ライセンス更新までの一時的出荷停止、現地卸売事業者の再編影響等)



正露丸



セイロガン糖衣A

### 地域別売上高

単位:百万円

	FY09 2Q累計	FY10 2Q累計	増減	増減率
中国・香港	447	230	△217	△48.6%
台湾	48	17	△30	△63.5%
その他(※)	18	18	0	3.7%
計	513	266	△246	△48.1%

(※) FY09 2Q: 米国、カナダ、タイ、マレーシア、インドネシア、モンゴル

FY10 2Q: 米国、カナダ、タイ、マレーシア、インドネシア

# セグメント別事業概況(感染管理事業)

## ▶ 新型インフルエンザ収束後の需要低迷と出荷額を上回る返品発生



クレベリン スプレー



クレベリン ゲル



クレベリンG スティックタイプ



クレベリン マイスティック



クレベリン ゲル、スティック  
ティズニーバージョン

©Disney



リスパスS



リスパスNEO

### 製品カテゴリー別売上高

単位:百万円

	FY09 2Q累計	FY10 2Q累計	増減	増減率
液剤	582	△45	△628	-
ゲル剤	1,800	△33	△1,833	-
キット	27	△0	△27	-
リスパス(※1)	5	3	△1	△30.9%
その他(※2)	93	△2	△95	-
計	2,510	△78	△2,588	-

(※1)リスパス:低濃度二酸化塩素ガス発生装置

(※2)周辺製品『クレベリン マスク』、『クレベリン ハンドジェル』

# セグメント別事業概況(その他事業)

➤木酢液を配合した入浴液、園芸用木酢液等を製造販売



木酢入浴液



木酢液

## その他事業製品売上高

単位:百万円

	FY09 2Q累計	FY10 2Q累計	増減	増減率
木酢製品等	21	14	△6	△32.4%



# 連結業績予想

# 連結業績予想(期初予想比較)

## ▶ 期初予想を大幅に下回る損失の見通し

単位:百万円

	期初予想	修正予想	増減	増減率	増減要因等
売上高	6,847	4,312	△2,534	△37.0%	
医薬品	4,712	4,510	△202	△4.3%	中国向け落込みと円高による海外減少、国内も微減
感染管理	2,099	△221	△2,320	-	需要低迷と多額の返品を予想
その他	34	23	△11	△33.9%	
営業利益	944	△1,853	△2,797	-	売上減少、原価増加(在庫の廃棄・減損等)、販管費増加(広告宣伝強化等)
経常利益	956	△1,860	△2,816	-	
当期純利益	664	△2,256	△2,920	-	・減損損失等の特別損失(119百万円) ・法人税等調整額(265百万円)

# 連結業績予想(前期実績比較)

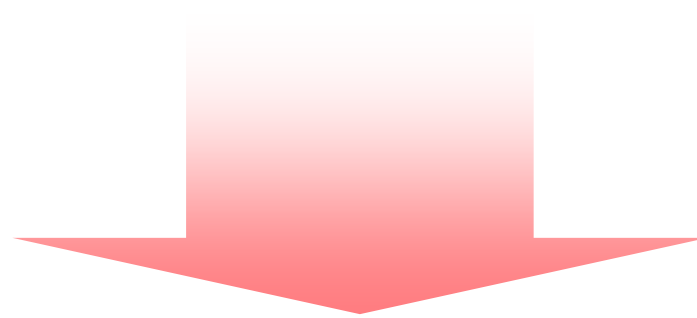
▶ 業績が急伸した前期に比較し、大幅な反動減の見通し

単位:百万円

	FY09 前期実績	FY10 修正予想	増減	増減率	増減要因等
売上高	8,816	4,312	△4,504	△51.1%	
医薬品	4,851	4,510	△341	△7.0%	市場停滞による国内減少、 中国向け落込みと円高による海外減少
感染管理	3,931	△221	△4,152	－	新型インフルエンザ収束後の需要低迷 と出荷を上回る返品が発生
その他	33	23	△10	30.8%	
営業利益	2,489	△1,853	△4,342	－	売上総利益の大幅な減少、 販管費増加(広告宣伝強化等)
経常利益	2,531	△1,860	△4,391	－	
当期純利益	1,645	△2,256	△3,901	－	

# 今後の対策 “V字回復に向けて”

**FY10(当期) ⇒ 赤字転落の見通し**



**FY11(次期) ⇒ 営業利益黒字化へ**

## 現状の損益構造

- **損益分岐点売上高(連結): 概ね57億円**
- 事業成長、組織拡大、上場により固定費が増加

連結損益推移

上場 ⇒

単位: 億円

	FY08 実績	FY09 実績	FY10 期初計画
売上高	60	88	68
費用	51	63	59
営業利益	8	24	9



FY10 修正予想
43
61
△18

固定費	38	41	45
損益分岐点	49	55	56

45
57

特殊要因  
←調整後

**現状の損益分岐点売上高 概ね57億円**

想定：医薬品47億円・感染管理10億円



**現状、感染管理10億円の確保が不透明**  
(過剰な流通在庫、インフルエンザの動向等)



**V字回復に向けた構造改革が必要**

## ➤ トップラインの成長

### 選択と集中によるリソース配分の見直し

- －マーケティング戦略の見直し
- －不採算事業からの撤退
- －新規開発の抑制

## ➤ 利益体質への転換

### 損益分岐点売上高の引下げ

- －戦略・組織体制見直しによる人件費削減等

## ➤ 財務基盤の強化

### 財務リスクの早期解消、キャッシュポジションの改善

- －在庫リスク圧縮(廃棄促進、減損処理)
- －リスク資産・非稼動資産圧縮(遊休不動産等)



# 今後の対策(改革スケジュール)

**FY10**  
**V字回復への改革開始**

**FY11**  
**営業利益黒字化**

**FY12**  
**再び成長軌道へ**

## 《トップラインの成長》

**流通在庫の正常化**

- 広告・販促 追加検討

**リソース配分の見直し**

- 不採算事業撤退・新規開発抑制

**感染管理売上10億円確保 ・ 安定した事業の成長へ**

- 広告・販促強化
- 海外展開の加速
- リソース再配分

## 《利益体質への転換》

**戦略・組織 見直し開始**

- 不採算事業撤退・新規開発抑制
- 海外拠点の一部閉鎖検討

**損益分岐点引下げ ・ 確実に利益確保可能な体質へ**

- 事業・組織・営業体制の一部変更
- 人件費を中心とする固定費削減

## 《財務基盤の強化》

**財務リスク早期解消・キャッシュポジション改善**

- 感染管理在庫の廃棄促進・減損処理
- 遊休不動産売却